

2022年度 年次報告書



特定非営利活動法人
河北瀉湖沼研究所
Kahokugata Lake Institute

河北潟湖沼研究所のビジョン

＜私たちが目指す河北潟の姿＞

流域全体が無農薬となり、ヤマトシジミ、ウナギなどが生息する河北潟が復活し、潟漁が営まれて食卓も豊かになります。

水草が増えて水も透明になり、清湖のきれいな水と自然が取り戻された流域にはいろいろな地場産業が発展しています。

「河北潟」は地域に活力を与え続けます。

ビジョンの実現にむけて、河北潟湖沼研究所は課題を達成するための研究をおこない、成果を検証しながら方法を構築することをミッションとしています。また、ビジョンの実現のためには行政機関や地域の住民、産業の役割が必須であることから、多くの関係者が連携し、役割を分担してビジョンが実現できるよう呼びかけや調整に取り組んでいます。

河北潟湖沼研究所のミッション

- ミッション1 潟の再汽水化と自然流下の復元
- ミッション2 かつての潟の水質と生物多様性に近づけるための流域管理の視点からの農薬を使わない新しい農業の確立
- ミッション3 泳げる河北潟・食べられる河北潟のために内水面漁業の復活
- ミッション4 地域産業において潟の自然環境が活かされるための河北潟ブランドの確立とエコツーリズムの展開
- ミッション5 林業の活性化による流域全体の健全化
- ミッション6 コミュニティによる流域管理の手法の確立

ごあいさつ

コロナ禍3年目の活動の展開とアフターコロナに向けて

日頃より河北潟湖沼研究所の活動にご支援ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

コロナ禍も3年目となり、2022年度の活動はこれまでの2年間の経験を生かして、感染の波に注意しながらイベントの実施のタイミングを決めることができるようになり、比較的スムーズに活動を進めることができました。まだ様々なイベントが中止されている中、ほぼ通常通りの実施ができたことにより、私たちのイベントやその他の活動は、例年よりも多くの方に参加いただくことができました。特に、当研究所が事務局となった河北潟自然再生まつりは、たいへん多くの方に参加いただくことができました。夏に実施したインターンシップの取り組みにも全国からご参加いただき、参加者からは貴重な体験となったという感想をいただきました。新たに始めた「ジュニア河北潟流域レンジャー」の取り組みでは、4名のキッズレンジャーが誕生しました。この活動は安藤スポーツ・食文化振興財団の進める「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」にも参加し、1年目であるにもかかわらず入賞することができました。

オンラインを併用したシンポジウムも概ねうまく実施できるようになり、参加者の枠が広がりました。2月のゴミシンポジウムは、多様な関係者の参加をいただき、多角的な視点からゴミ問題を考えることができました。3月の流域シンポジウムでは、全国の自然再生協議会の取り組みにつ

いて多彩な講師のみなさまの話をお聞きすることができ、オンラインで視聴された全国の方から、たいへん参考になったとのお声をいただきました。

2021年に河北潟湖沼研究所も参加する河北潟自然再生協議会が、自然再生推進法に基づく法定協議会の発足を発意しましたが、2022年は協議会発足に向けた取り組みに力を入れた1年でした。5回のワークショップを経て、地域の方々の意見を反映した「河北潟流域の自然再生全体構想(案)」が作成されました。まだ、市・町の参加を得ることができていないなど課題は残っていますが、地域の多様な主体の参加が広がってきています。正式に法定協議会が発足するまでには、まだまだ紆余曲折が予想されますが、流域を俯瞰しての活動の展開を進め、上～下流域の地域の問題を解決する取り組みを拡げていきたいと思えます。

2022年度の取り組みを推進するにあたり、会員の皆様、多くの団体・個人の皆様より会費や寄付金を賜りました。また、独立行政法人環境再生保全機構様、株式会社エフピコ様、ラッシュージャパン合同会社様、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団様より、各助成制度において資金のご援助を賜りました。心より御礼申し上げます。

河北潟湖沼研究所は、引き続き旺盛に活動を展開していく所存です。皆様のさらなるご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

河北潟湖沼研究所 理事長 高橋 久

河北潟を再生したい!

ビジョン実現にむけて河北潟及び大野川での調査をすすめています。また、シンポジウムやセミナーを実施し、河北潟の課題、展望を話し合い、学ぶ場を作っています。

課題

- 河北潟の水がなかなかきれいにならない
- 流域住民と河北潟との接点が少ない

取り組み

- 河北潟や大野川での調査の継続実施
- 流域連携をテーマにしたシンポジウムや河北潟セミナーの開催

2022年度の成果

- 「河北潟総合研究第25巻」発刊、河北潟や大野川での調査結果の公表
- シンポジウム、河北潟セミナーに68名参加
- 河北潟研究奨励助成実施



調査の継続実施

前年度までに引き続き、河北潟の再汽水化に向けた基礎研究をすすめています。河北潟では、富栄養化や透明度の低下が問題となっていますが、私たちは再び海水の入る湖に戻す再汽水化が、ひとつの有効な解決方法であると考えています。2022年度は大野川と河北潟の塩分濃度等の現状や過去の汽水域をめぐることについての調査研究を一定程度すすめることができました。また、その成果は河北潟総合研究25巻に掲載されました。



調査・研究に参加しよう

現地調査や研究会議への参加

河北潟湖沼研究所は、研究者はもちろん、市民、企業、農家、学生、どのような方でも「研究したい」という方の参加を歓迎します。ご興味のある方はお問い合わせください。

河北潟研究奨励助成への応募

毎年12月に募集を行っています。助成対象となる研究課題は河北潟の自然再生と環境保全、干拓地農業、地域資源の循環的利用等です。当団体ホームページやメルマガ等でご案内しています。



河北潟流域シンポジウム実施

つくってよかった自然再生協議会 作ることでできたこと、続けることでできること

会場：石川県地場産業振興センター
本館1階第7研修室+オンライン

2023年3月25日、6回目となる「河北潟流域シンポジウム」が「自然再生協議会」をテーマに開催されました。当団体では過去に河北潟を対象に様々な環境保全活動をおこなってきましたが、下流にある河北潟ばかりを見ていても問題は解決せず、上流域とも協力して活動しなければ問題が解決していかないことに気づき、流域シンポジウムを開催しています。河北潟流域で法定協議会の結成を目指していますが、流域の中で地域も立場も違う多様な人々が同じテーブルに集まること自体が、非常に難しいことがわかってきました。そのような中で意見調整をすすめています。すでに全国では27の法定自然再生協議会があります。本シンポジウムでは高知県より岩瀬文人氏、福井県より関岡裕明氏、岩手県より千坂げんぼう氏を講師にお招きしました。自然再生協議会の設立や運営に深くかかわられておられる方ばかりです。協議会ができたことによる良い影響、事務局運営の方法、地元住民の関心の高め方等、様々なお話を聞くことができ、学びの多いシンポジウムとなりました。

< プログラム >

主催者挨拶・趣旨説明

高橋 久(NPO河北潟湖沼研究所理事長/河北潟自然再生協議会事務局長)

全国の事例紹介

『自然再生に参加する多様な主体の役割分担』
岩瀬文人氏(竜串の自然と共生した地域づくり協議会 副会長/竹ヶ島海域公園自然再生協議会 副会長)

『自然再生協議会を作ってよかったと思うこと～福井県下2協議会の裏方に関わって～』

関岡裕明氏(株式会社BO-GA代表取締役)

『「生きもの浄土の里」づくり ～自然再生協議会の果たす役割～』

千坂げんぼう氏(僧侶/久保川イーハトーブ自然再生協議会会長)

河北潟流域自然再生協議会準備会より報告

綿村 裕氏(河北潟流域自然再生協議会準備会代表/河北潟自然再生協議会代表世話人)

質疑応答とディスカッション



河北潟流域シンポジウム講師の皆様。

河北潟セミナー実施

2022年7月24日、青森県より、弘前大学名誉教授の大高明史氏を講師にお招きし、「ザリガニに共生するヒルミズ類の自然史」をテーマに、河北潟セミナーを実施しました。

*河北潟流域シンポジウム、河北潟セミナーの実施にあたり、地球環境基金の助成金を活用しています。

河北潟研究奨励助成実施・河北潟総合研究第25巻発行

河北潟に関する基礎的学術資料の蓄積をはかり、地域の持続的な社会のあり方を検討すると共に、地域の研究ネットワークを広げる取り組みとして、専門的知識を持つ研究者や学生、持続的社会的の実現を目指し活動を続けている方々が取り組む研究を奨励する助成を行っています。2022年度は活動に賛同いただいた方からの寄付、事業活動収益を原資として実施しました。本助成では助成期間終了後、成果として当団体の機関誌「河北潟総合研究」に原稿を投稿いただいています。2022年度に発行した第25巻では、2018年度と2019年度に実施した助成の成果論文が掲載されています。河北潟総合研究は研究成果普及のため、会員や主な研究機関に配布するほか、ホームページでも公開し、冊子は販売も行っています。

2022年度 河北潟研究奨励助成 決定

申請者 野田 英樹さん(所属:帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科)

助成金額 100,000円

研究課題 河北潟西部承水路に生息する淡水生カメ類群集の長期的研究

機関誌・河北潟総合研究

河北潟総合研究はホームページで公開しています。また1部1000円で頒布しており、バックナンバーも購入いただけます。



農地と生きものをまもりたい!

課題

- 河北潟地域の田んぼの生きものが減少
- 流域の農地で使われる肥料や農薬が河北潟の水質汚濁の要因となっている

取り組み

- 必要のない農薬を使わない農地を増やし、そこでできたお米を販売
- 内灘砂丘地の畑で農薬、化学肥料を使わない野菜作りとその販売

2022年度の成果

- 生きもの元気米圃場面積 4,957m² 増加
- 無農薬野菜栽培の継続



生きもの元気米

河北潟周辺には田んぼがたくさんあります。そこでは昔と比べ生きものの種類も数も大幅に減っています。大きな原因となっているのが、①農薬の空中散布+浸透性殺虫剤(ネオニコ含む)、②畦の除草剤散布であると私たちは考えています。そこでこの二つを実施しないことを条件に栽培した「生きもの元気米」の取組を2014年から継続しています。契約農家と当研究所が、それぞれ決まった田んぼで栽培しています。また、田んぼで生きもの調査を実施し、田んぼ一枚ごとに生きもの元気米認証をして販売しています。農地の生物多様性を保全し、田んぼの生きもの調査結果を公開することで、生産者と消費者の農地の環境保全への意識を高め、安心して食べられる農産物を届ける活動です。2022年度は参加型で生きもの調査も実施しています。

圃場面積

2022年
57,598m²

* 稲作田11枚+蓮田(レンコン)6枚

生産量

2022年
7.2トン



すずめ野菜

河北潟のとなりにある内灘砂丘地の畑で、農薬や化学肥料を使わずに野菜を作っています。砂丘地で農薬や肥料の量を減らすことは、内灘砂丘から流れ込む水をよくし、河北潟の水質改善にもつながります。ここで栽培した野菜を「すずめ野菜」として、主にゆうぐれ金曜マルシェで販売しています。2022年度はボランティアやインターンの受け入れも行い、農薬不使用での畑作業を体験いただける場ともなっています。



持続可能な農業をまもりたい!

課題

- 農家の高齢化や大規模農業化で、農地に関わる人が減り、農地の細やかな手入れが難しくなっている。

取り組み

- 農地と市民をつなぐ農業不使用の米作り
- 農家、企業、市民、NPO協働で水路保全活動
- 金沢市中心部と河北潟の農地をつなぐマルシェの実施

2022年度の成果

- 七豊米田んぼ作業にのべ116人参加
- 外来植物除去(水路保全)活動に54人参加
- ゆうぐれ金曜マルシェ33回実施



七豊米

七豊米は2012年より、農薬・化学肥料を使わずにお米を栽培しています。田植えや稲刈り、観察会イベントのほか、水苗代での苗作りや、畦塗り、除草等様々な農作業をスタッフとボランティアとで行っています。地域に昔からある米作りの技を学ぶ、農地の環境や生きものを保全する、体感できる場を提供しています。2022年度は新たに田んぼが1枚増え、合計3枚(約1,712m²)の田んぼで活動を行い、のべ116名の方にご参加いただきました。新たに増えた1枚は「ハッタミミズの田んぼ」として、お米を栽培するだけではなく、ハッタミミズや、水生生物がすみやすい場所を作る体験活動を行いました。

外来植物除去活動

実施: 河北潟地区外来植物対応方策検討会、河北潟の水辺を守り隊、グリーン・アース農地・水・環境保全組織、協力: 河北潟湖沼研究所

河北潟周辺の農地の水路では、外来植物チクゴスズメノヒエにより、水の流れがふさがれる、在来植物の生息場所が奪われるなどの問題があります。この除去活動を他団体と協力して実施しています。当団体は実施場所の選定や記録、当日の運営等を行っています。またヨシ群落に入るセイタカアワダチソウの除去活動や、除去した植物の有効活用等も行っています。



金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ

金沢駅西イベント広場で、4月から11月まで毎週金曜夕方、河北潟周辺や干拓地で栽培された農産物、すすめ野菜や生きもの元気米、七豊米等を金沢駅周辺住民に直接届けるマルシェを実施運営しています。都市部住民と河北潟の農地や自然環境をつなぐ場となっています。



開催情報



募集中!

当団体と契約し、生きもの元気米を栽培いただける農家
田んぼや畑の農作業、生きもの調査、マルシェ開催に協力いただけるボランティア

河北潟流域全体の 保全を進めたい!

課題

- 流域単位の取り組みが遅れている、流域連携の仕組みがない

取り組み

- 自然再生推進法に基づく「河北潟流域自然再生協議会」設立に向けたワークショップ実施
- 流域の保全を担う人材育成のため「ジュニア河北潟流域レンジャー」プログラム実施
- 河北潟流域ゴミ拾い、ゴミ調査とゴミをテーマにしたシンポジウムの実施
- 流域の他団体と協力した活動の実施

2022年度の成果

- ワークショップに計111人参加、河北潟流域自然再生全体構想(案)の完成
- ジュニア河北潟流域レンジャー4人認定
- 河北潟流域のゴミ拾い、ゴミ調査、ゴミをテーマにしたシンポジウムに計171人参加
- 河北潟クリーン作戦に637人、河北潟自然再生まつりに約400人参加



河北潟流域まるごと体験プログラム(2022年8月21日)。



河北潟クリーン作戦(2022年4月17日)。



河北潟自然再生まつり(2022年10月23日)。

河北潟流域自然再生協議会の 設立に向けた取り組み



河北潟流域で連携して環境保全活動を行う仕組みとして、「河北潟流域自然再生協議会」の設立にむけた取組を、地域の他団体の皆様と協力してすすめています。2022年度はワークショップを5回実施したほか、専門家に協力をいただき話し合いを進め、河北潟流域自然再生全体構想案を作成しました。この取り組みにおいて、当団体は事務局として様々な調整や会議の運営等を行っています。

ジュニア河北潟流域レンジャー

河北潟大好きっ子が増え、生態系と自然環境の問題に気づくことのできる感性豊かな人材が育まれることを願って、2022年度より開始しました。「河北潟流域まるごと体験」と題し、たくさん子どもたちが河北潟で展開する色々な活動に参加できるよう、プログラムを連続実施しています。各プログラム参加ごとに単位取得ができ、8単位以上の取得で「ジュニア河北潟流域レンジャー」として認定されます。2022年は4名が認定されました。

*ジュニア河北潟流域レンジャープログラムの実施にあたり、安藤スポーツ・食文化振興財団の支援金を活用しています。



河北潟流域レンジャー認定者と活動ポスター展示の様子（左）、認定者に送られるバッジ。

河北潟流域ゴミ調査、シンポジウム

河北潟のどこにどのようなゴミがあるのか、どこにゴミ溜まりやすいのか、ゴミの状況を調べています。2022年度は8月に湖岸を周り一般参加者とともに湖岸のゴミ調査を実施、計14名が参加しました。地表面から5cmほどの中に砕けたプラゴミが多数混ざっている場所も見つかりました。また野鳥観察とゴミ拾いを組み合わせた河北潟流域バスツアー、田んぼ排水路でのゴミ拾いとゴミ調査等も実施しました。9月には「津幡の水辺を守る会」にご協力をいただき、カヌー体験を交えたゴミ拾い活動も実施しました。

2023年2月24日には、河北潟流域のゴミをテーマにしたシンポジウム「ゴミに取り組むひとびと」を実施し、60名の方にご参加いただきました。

*河北潟流域ゴミ調査、シンポジウム等の実施にあたり、エフピコ環境基金の助成金を活用しています。



他の団体と協力した活動

河北潟クリーン作戦

主催：河北潟クリーン作戦実行委員会
事務局：河北潟湖沼研究所

毎年4月に数百名が参加している河北潟の一斉清掃活動です。河北潟湖沼研究所は事務局として実行委員会の開催、関係機関との調整や連絡、広報活動、当日の実施運営、記録、報告等を行っています。2022年は4月17日に実施し、637名の方に参加いただきました。河北潟の湖岸8地点でゴミ拾いが行われ、約3トンのゴミが回収されました。

河北潟自然再生まつり

主催：河北潟自然再生まつり実行委員会
共催：河北潟湖沼研究所

毎年秋に開催され、河北潟地域で環境保全活動を行っている団体が集まり、活動をPRするとともに色々な体験プログラムを行っています。2022年は10月23日に実施、約400名に参加いただきました。河北潟湖沼研究所は準備段階から中心としてかわり、実行委員会の開催、他の共催団体との調整、広報等を行い、また当日は複数のプログラムを実施しました。

ご支援、ご寄付ありがとうございます

河北潟湖沼研究所の活動は、たくさんの方々のご支援、ご寄付、ご協力で成り立っています。

2022年度は全体で318,101円のご寄付を賜りました。また事業活動の面からも団体、企業等のみなさまからご支援をいただきました。活動の実施や運営にあたり、たくさんのボランティアの皆様にご協力をいただきました。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

■ ご寄付をいただきました

- 個人及び団体のみなさまより 計318,101円

■ 助成金を活用させていただきました

- 地球環境基金 3,000,000円
活動名：流域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する
- LUSH Re:Fund Local 2,920,000円
活動名：生物多様性を保全したリジェネレイティブな地域をつくるプロジェクト ステップ1. 農業に頼らない新しい農業の推進（2022年度分として180万円を使わせていただきました）
- エフピコ環境基金 1,000,000円
活動名：ゴミゼロ河北潟の実現にむけたゴミ拾い、調査、啓発活動

■ プログラム支援、表彰をいただきました

- 安藤スポーツ・食文化振興財団
第21回トム・ソーヤースクール企画コンテストに応募し、実施支援金として100,000円をいただきました。また、実施結果による審査で、「努力賞」をいただき、副賞として賞金100,000円とチキンラーメン3ケースをいただきました。

■ プロボノによる活動支援

ホームページ制作やSNSの運営について、作業協力、ご支援をいただきました。

■ ボランティアによる活動支援

活動やイベントの実施において、体験農地の整備や、イベントの準備片付け、運営スタッフの補助等で、ボランティアの皆様のご協力をいただきました。



地球環境基金助成金を活用して製作した「河北潟流域新聞」。



エフピコ環境基金助成金を活用した河北潟流域ゴミ調査、ゴミ拾い活動。



カメムシの吸汁加害による斑点米等を取り除いてくれます。



LUSH Re:Fund Localからの助成金により購入したお米の色彩選別機、生きもの元気米を選別します。



トム・ソーヤースクール企画コンテストによる実施支援金を活用した河北潟流域まるごと体験。

様々な形でのご支援、ご協力、誠にありがとうございます。

2022年度決算報告

貸借対照表

2023年3月31日

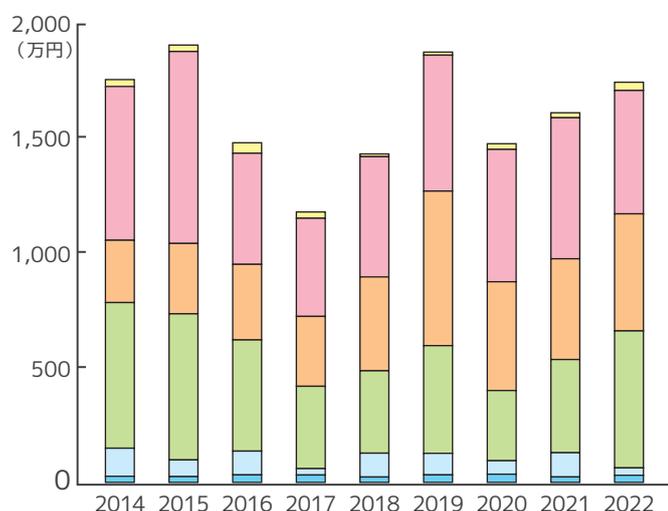
項目	金額 (円)
資産の部	
【流動資産】	
現金及び預金	3,166,286
売掛金	1,748,535
未収補助金	1,969,000
商品 (元気米在庫)	950,000
流動資産合計	7,833,821
資産の部合計	7,833,821
負債の部	
【流動負債】	
短期借入金	214,801
未払金	260,450
未払費用	409,123
未払法人税等	71,000
未払消費税	318,900
前受助成金	1,120,000
預り金	52,584
流動負債合計	2,446,858
負債の部合計	2,446,858
正味財産の部	
【正味財産】	
前期繰越正味財産	5,613,700
当期正味財産増減額	△ 226,737
正味財産の部合計	5,386,963
負債及び正味財産合計	7,833,821

活動計算書

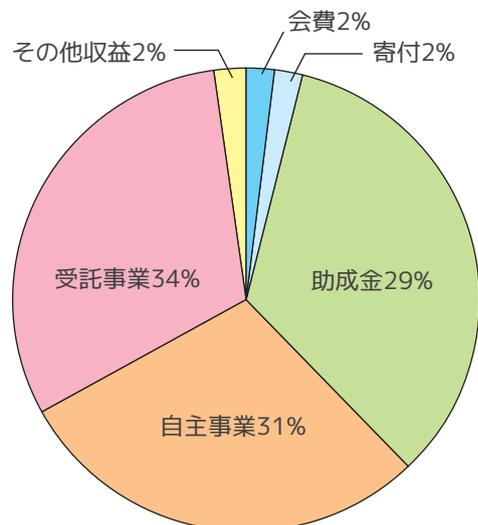
自 2022年4月1日 至 2023年3月31日

科目	特定非営利活動にかか事業	その他の事業	合計 (円)
【経常収益】			
受取会費	310,000		310,000
受取寄付金	318,101		318,101
受取助成金等	5,950,000		5,950,000
事業収入	8,145,440	2,297,382	10,442,822
受取利息	32		32
その他収益	358,081		358,081
経常収益合計	15,081,654	2,297,382	17,379,036
【経常費用】			
事業費			
人件費	6,487,720	1,212,201	7,699,921
その他の費用			
売上原価	2,216,150		2,216,150
租税公課	214,500	104,400	318,900
地代家賃	62,500		62,500
諸会費	12,000		12,000
諸謝金	392,836		392,836
リース料	670,540	885,250	1,555,790
印刷製本費	388,669		388,669
荷造運賃	285,009		285,009
外注・委託費	961,174	61,700	1,022,874
修繕費	0		0
研究事業費	100,000		100,000
賃借料・役務費	0		0
支払手数料	169,021	5,984	175,005
通信費	43,834		43,834
会議費	26,199		26,199
広告宣伝費	0		0
旅費交通費	650,352	120,000	770,352
助成金購入備品	1,138,400		1,138,400
消耗品費	1,317,427	8,907	1,326,334
経常費用合計	15,136,331	2,398,442	17,534,773
税引前当期正味財産増減額	△ 54,677	△ 101,060	△ 155,737
法人税・住民税及び事業税		71,000	71,000
当期正味財産増減額	△ 54,677	△ 172,060	△ 226,737
前期繰越正味財産			5,613,700
正味財産合計			5,386,963

経常収益推移(2014~2022年度)



2022年度 経常収益割合





河北潟湖沼研究所の活動は、皆様のご支援で成り立っています。
一緒に活動して下さる方、応援して下さる方を待っています。

会員になる

会員を随時募集しています。入会ご希望の方は下記連絡先までお問い合わせください。

会員種別	年会費	備考
正会員	個人(一般) 12,000円	※機関誌「河北潟総合研究」が年1回、 通信「かほくがた」が年4回届きます。 ※河北潟カレンダーがもらえます。 ※イベントや活動案内が届きます。
	個人(学生) 3,000円	
	団体 24,000円	
サポート会員	2,000円	
団体サポート会員	50,000円～	
ボランティア会員	無料	※イベントや活動案内が届きます。

寄付をする

ご寄付で当研究所への活動支援をお願いいたします。用途を指定してのご寄付も可能です。

- 郵便振替 ゆうちょ銀行(振替口座) 00730-1-48345
加入者名 特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所
*通信欄に寄付金とご記入ください。ご住所とお名前を必ずご記入ください。
- 銀行振込 楽天銀行 第一営業支店 普通 093010
口座名義:トクヒ)カホクガタコショウケンキウジョ
- クレジットカード 下記URLより決済ページにおすすみください。
<http://kahokugata.sakura.ne.jp/donation.shtml>



寄付ページ

購入する

ゆうぐれ金曜マルシェのほか、下記ネットショップで生きもの元気米や七豊米、すずめ野菜、河北潟総合研究等をご購入いただけます。

- 河北潟湖沼研究所のお米屋さん <http://kahokugata.cart.fc2.com/>
- すずめ野菜 <https://suzumeyasai.cart.fc2.com/>



お米屋さん



すずめ野菜

参加する

調査研究、保全活動、体験イベント等へのご参加をお待ちしています。活動情報は研究所ホームページやSNS、メルマガ等でご案内していますので、フォローや登録をお願いいたします。また日常活動へのボランティア参加もお待ちしております。メールや電話等でお気軽にお問い合わせください。



メルマガ登録



Instagram



X(旧Twitter)



facebook

NPO法人河北潟湖沼研究所(かほくがたこしょうけんきゅうじょ)

〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9

電話 076-288-5803 fax 076-255-6941

E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp

ホームページ <http://kahokugata.sakura.ne.jp>